最重度：入院が必要である。頭部外傷のおそれ：乳幼児を投げる、逆さつり、布団蒸し
首を絞める・水につける・踏みつける・頭部を蹴る・性的虐待
脱水・明らかな衰弱・乳幼児に医療受診させない。
重　度：医療を必要とする外傷・打撲・目の外傷・火傷・幼児の打撲
中　度：慢性のあざや傷痕・噛み傷・生活環境不良で改善ない・放置する
軽　度：跡が残らない暴力・健康問題がおきない程度のネグレクト
虐待の部位　　最重度（生命の危険）・重度　：　顔面・頭部・頸部・性器・内臓
中度・軽度　　：　臀部・上下肢

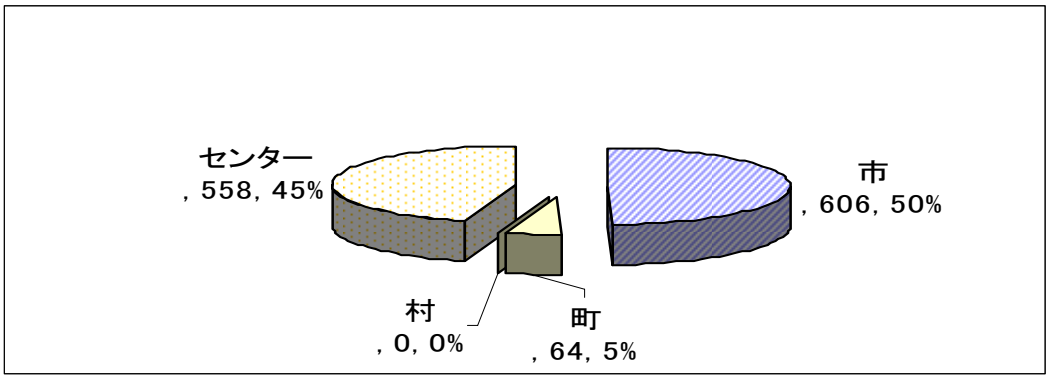
シートは、業務にさしつかえない量として20カテゴリー、22項目をA4版一枚におさめた。

結　果

(1)　児童虐待相談の状況

今回調査については、市町村とセンターとの重なりはすべて点検をして、データが重なっていないことを確認したうえで、調査を実施している。回答の内訳は図表１に示すとおり、こども家庭相談センターが558、市が606、町が64で村は0であった。
なお、図表番号は数値の記入のない場合に，資料として掲載している。

図表１　　児童相談担当領域

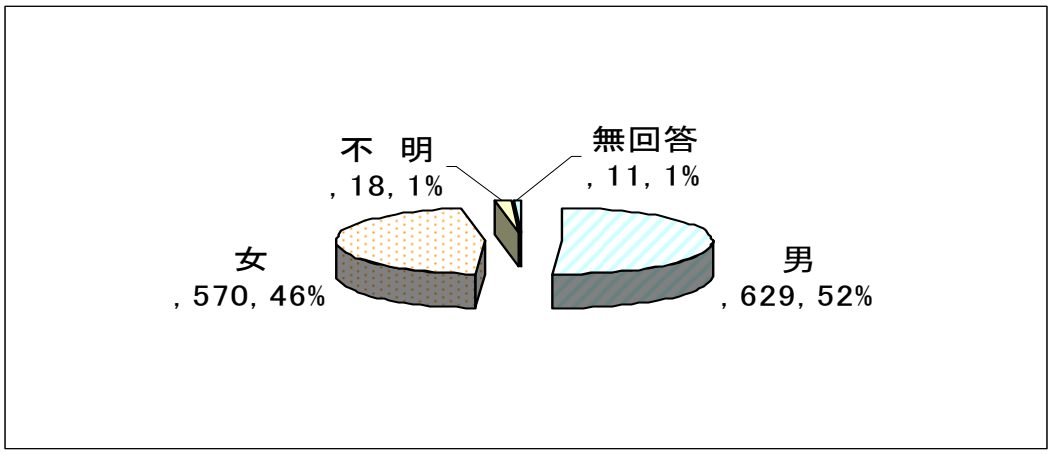


１．被虐待児の状況

１）被虐待児の性別

男子が女子よりも6%多い。

図表２　被虐待児性別

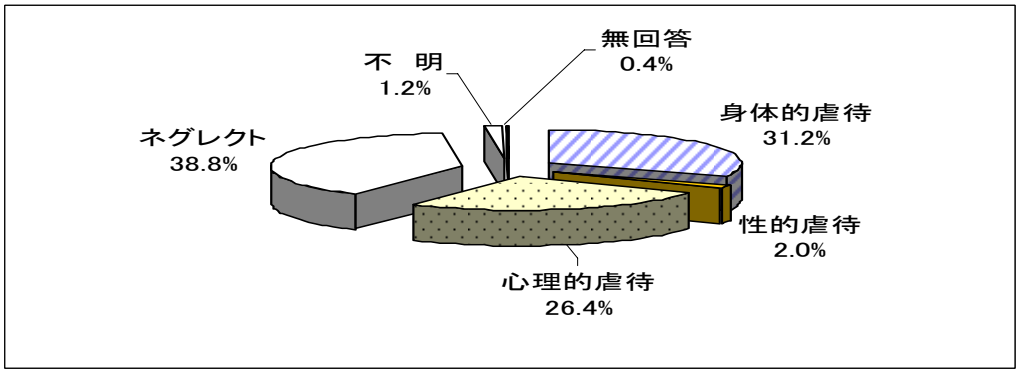


２）虐待の種類

ネグレクトが40%、身体的虐待が31%を占める。

虐待の種類は「ネグレクト」が38.8%で最も多く、ついで「身体的虐待」31.2%、心理的虐待 26.4%で全体の 97%を占める。性的虐待は２%であり、全国調査に比べると割合が低い。

図表３　　虐待の種類

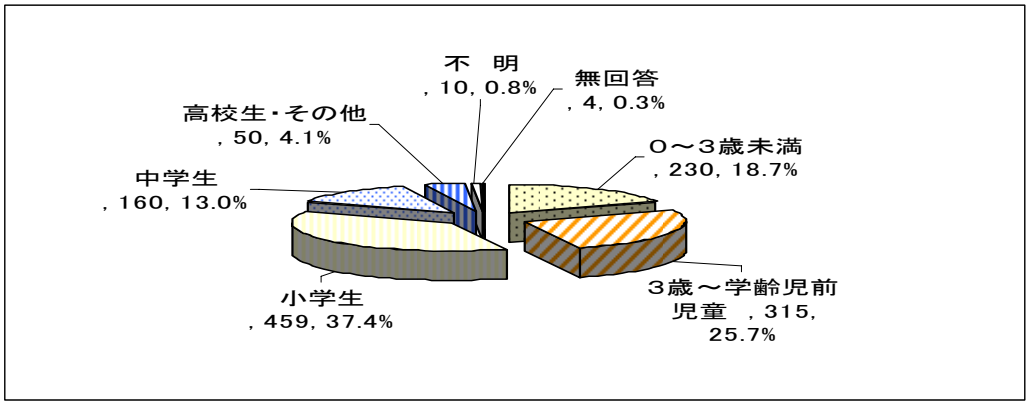


３）年齢

０歳から学齢前までが 44%を占める。

不明を除いた全体の平均年齢は７歳であった。もっとも多い割合は、０歳から学齢前の児童で全体の 44%である。ついで小学生 37.4%、中学生が 13.0%で学齢児は計５割を超えている。

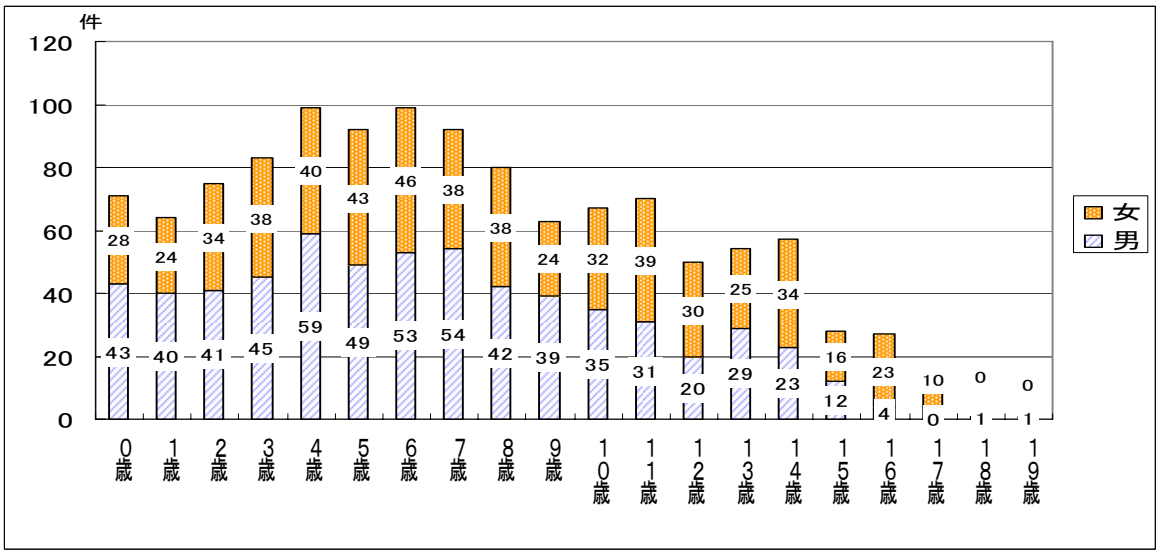
図表４　　被虐待児の年齢



①　性別と年齢

虐待をうけた年齢でもっとも多いのは４歳と６歳である。性別をみると０歳から 11 歳までは男子の割合が一貫して多く、それ以上の年齢では女子が多くなる傾向がある。

図表５　　年齢別男女比



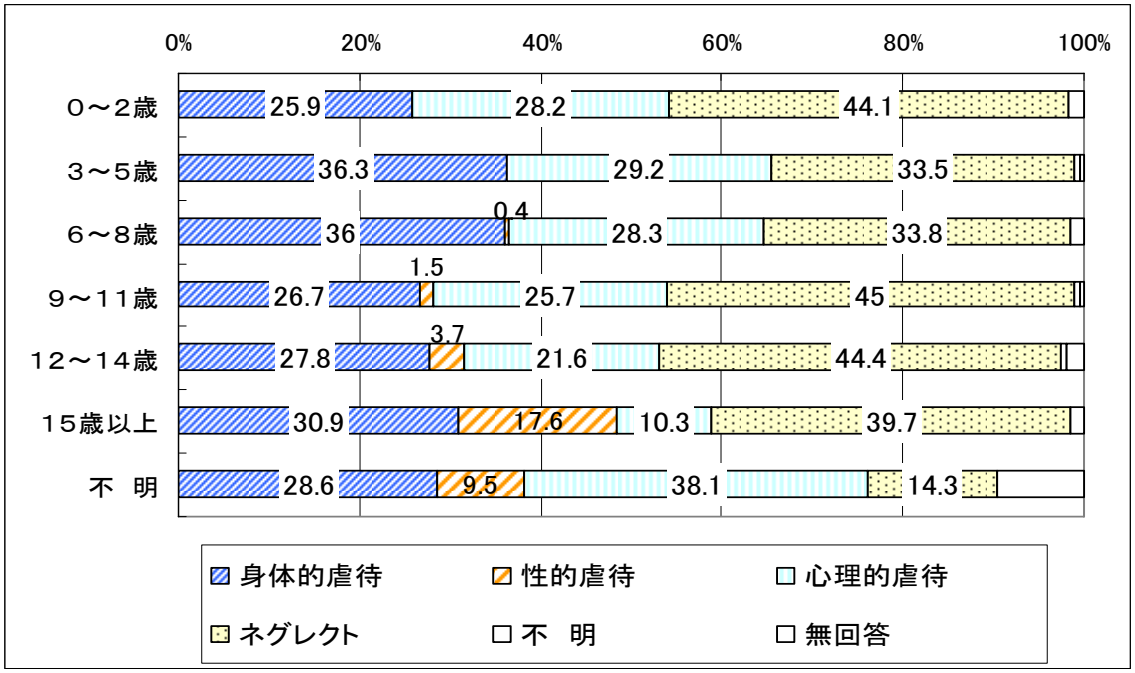
② 被虐待児年齢と虐待の種類

ネグレクトはあらゆる年齢に存在する。

ネグレクトは0歳から14歳までそれぞれの年齢の33%～45%を占める。慢性化していることが示唆される。

身体的虐待は3歳から8歳までが36%を占める。また性的虐待は6歳から出現しており、15歳以上では、そのうちの17.6%を性的虐待が占めている。

図表６　被虐待児年齢と虐待種類



４）被虐待児の属する機関

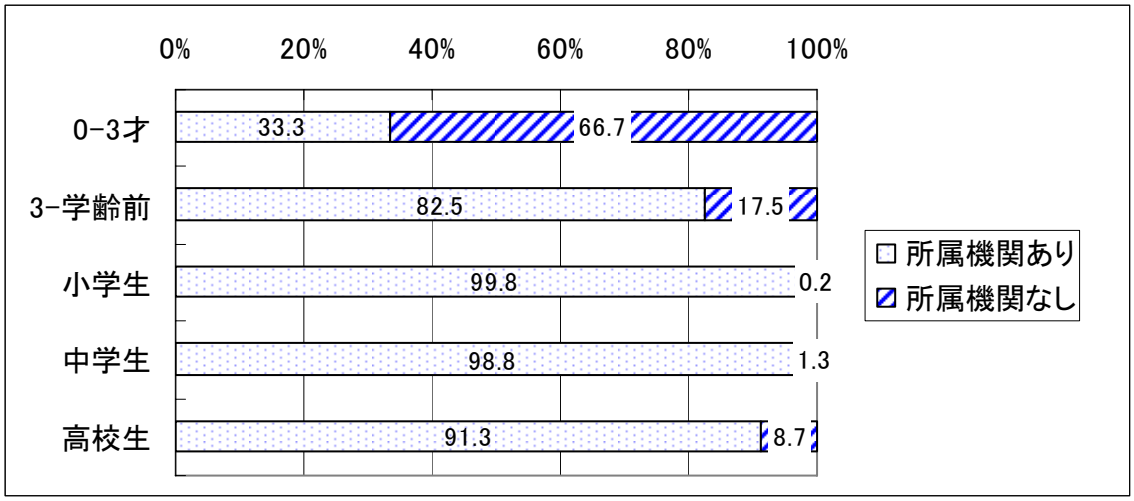
被虐待児の所属する機関は小学校が最も高く、ついで保育所、中学校となる。所属なしは全体の16%であり、特に０～3歳未満の７割が所属なしである。

被虐待児が属する機関は、『所属機関なし』が全体の16%を占めている。また所属機関なしについては就学前の子どもにみられ、0～3歳のうち67%を占めている。

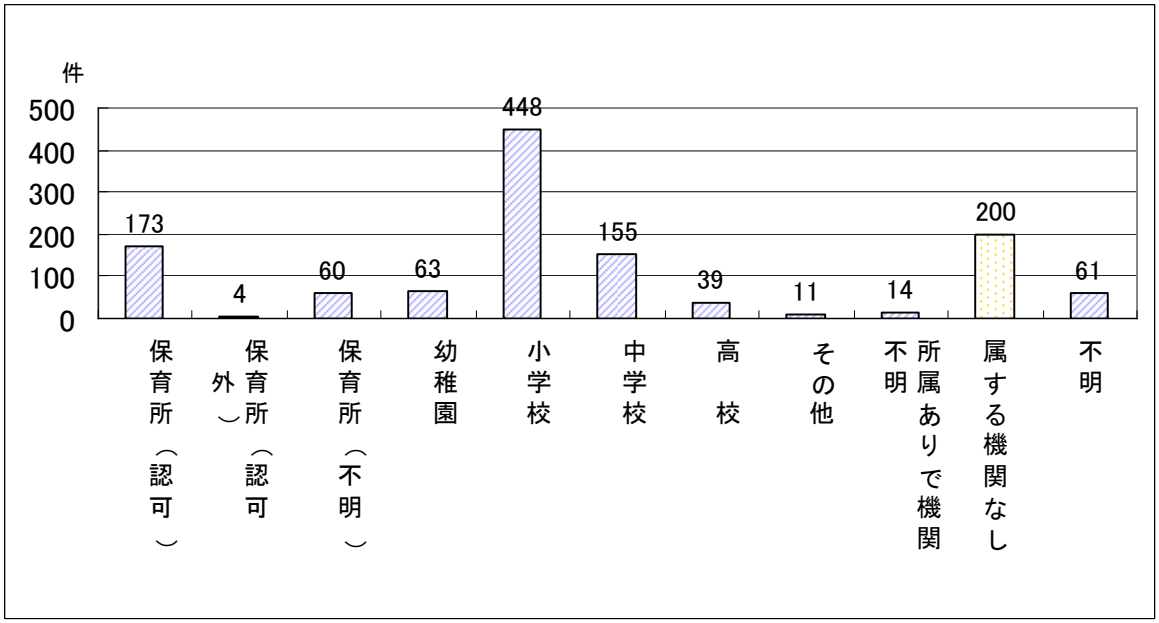
所属機関がある場合には子どもの状況を把握しやすいことを考えると、3歳未満については虐待の発見困難な割合が高い。

所属する機関では小学校がもっとも多く全体の36%、ついで保育所が14%を占めている。

図表７　被虐待児年齢と所属機関有無



図表８　被虐待児が属する機関

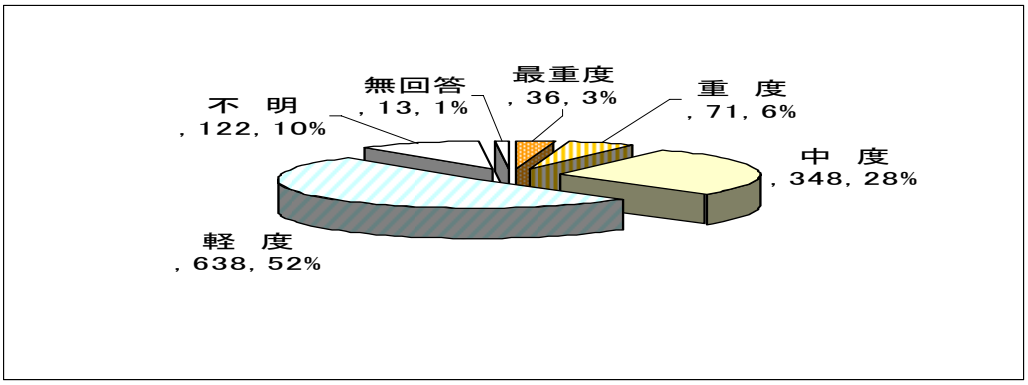


５）虐待の傷等の程度（以下、虐待の程度と表す）

軽度が全体の 52%を占める。

虐待の程度をみると、軽度が 52.0%である。ついで中度が 28.3%となる。生命の危険性が高い最重度、重度は合計すると 8.7%を占めている。中度以上はより深刻化、悪化しないために、早期の支援や対応が必要なケースである。

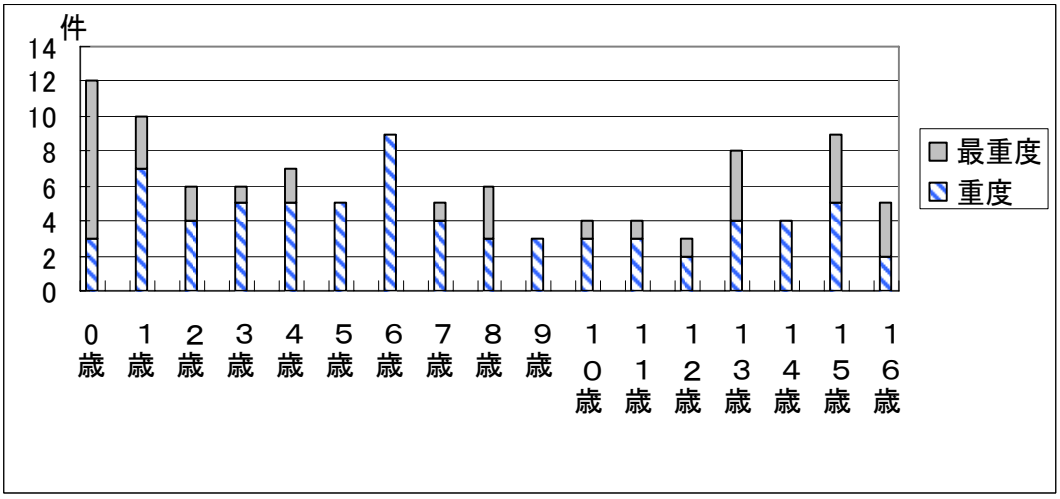
図表９　　虐待の程度



①　被虐待児年齢と虐待の程度

不明を除く虐待の程度の最重度、重度が占める割合は、0 歳が高い。13 歳から最重度は性的虐待との関係で最重度・重度の割合が高い。17 歳以上は今回調査ではなかった。

図表１０　　年齢別最重度･重度割合

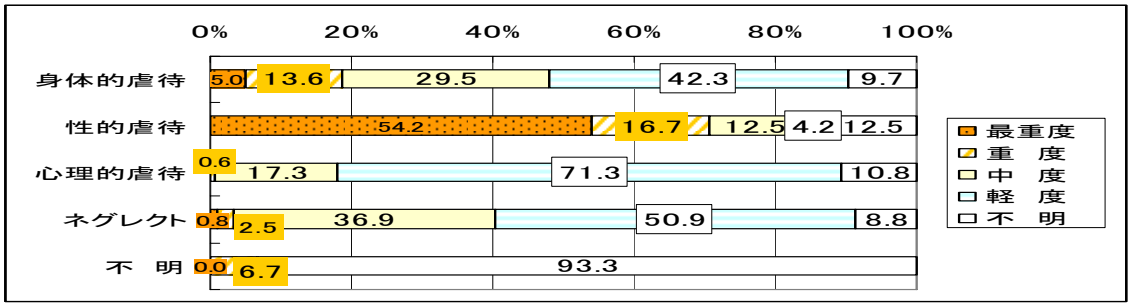


② 虐待の程度と種類

最重度は身体的虐待と性的虐待が９割を占めている。

重度は身体的虐待の占める割合がネグレクトや心理的虐待に比べると高いため、今後虐待自覚のない場合には、悪化することが懸念される。最重度と重度で 7 割に近い性的虐待については、子どものケアも視点にいれた支援が必要になる。心理的虐待は 7 割が軽度で、ネグレクトは５割が軽度を占めている。

図表１１　　虐待の種類と虐待の程度

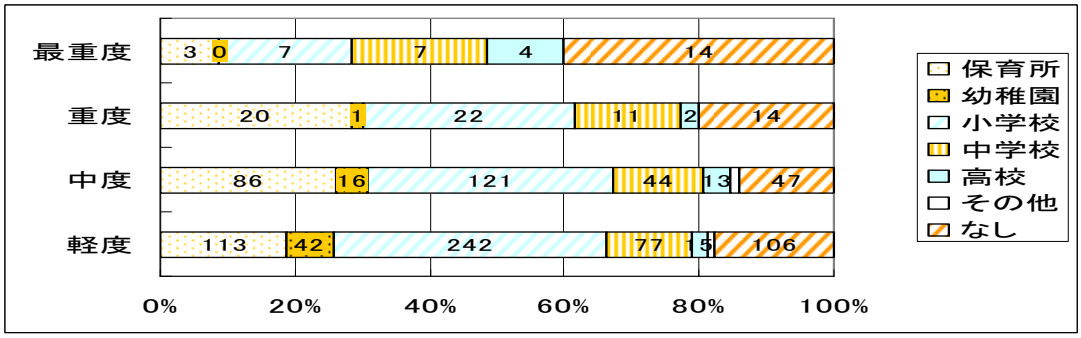


③ 虐待の程度と所属機関

虐待の程度の重いケースほど、被虐待児は機関に所属していない。

最重度では不明１件を除く 35 件中 14 件の４割が機関に属していない。
虐待の程度が重いほど、所属機関がない割合が高い。軽度から重度までは保育所、幼稚園、小学校で６割を占めている。日常的に子どもに接することができる所属機関との連携は重要である。したがって、所属する機関のないケースの場合には、問題を明らかにするための情報を収集し、個別ケース会議などを開いていく必要がある。

図表１２　　所属機関と虐待の程度



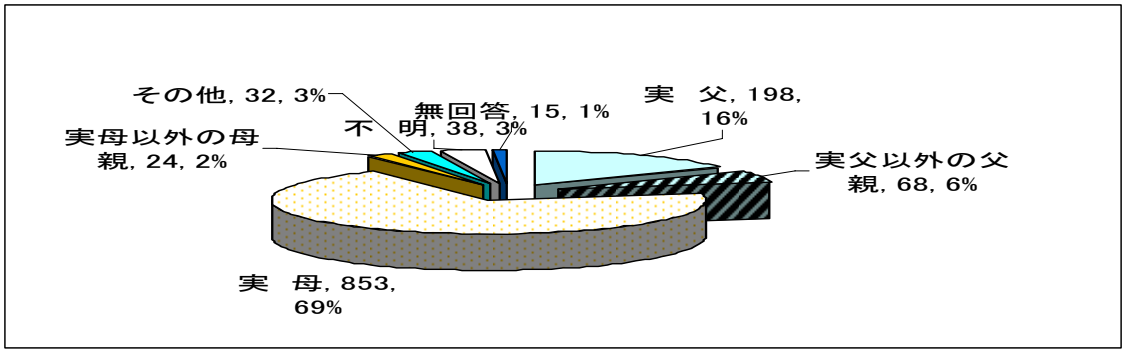
２．　虐待を行った養育者状況

１）虐待者の内訳

虐待者の７割は実母である。

虐待者は実母が 69%、ついで実父が 16%、実父以外の父親が 6%である。

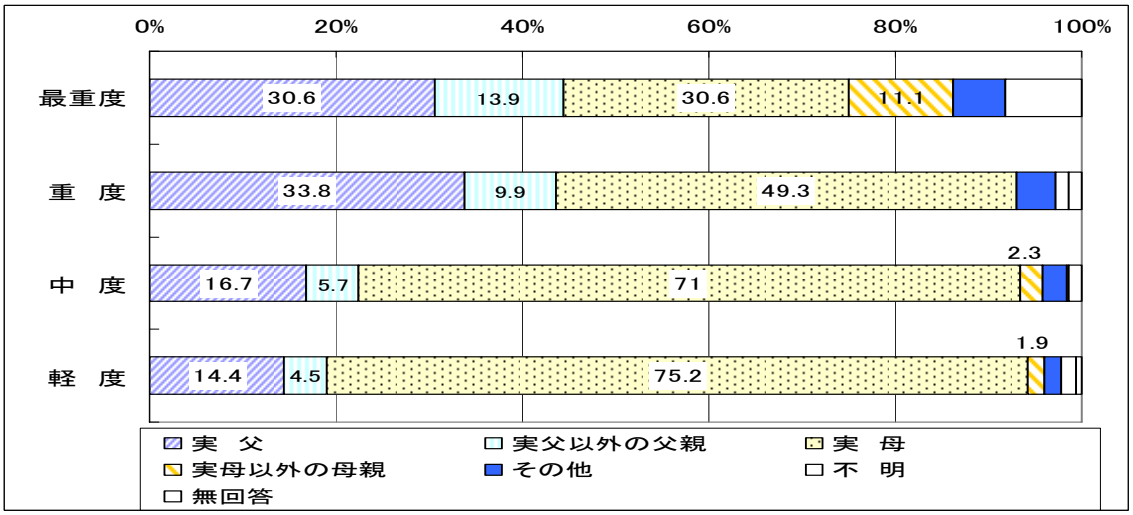
図表１３　　虐待者の内訳と割合



①　虐待者と虐待の程度

虐待者が実父や実父以外の父親の場合には、最重度・重度の割合が高い。実母は、軽度、中度で７割を占めている。しかし、最重度でも実母の占める割合は 30.6%、実母以外の母親が 11.1%を占めている。

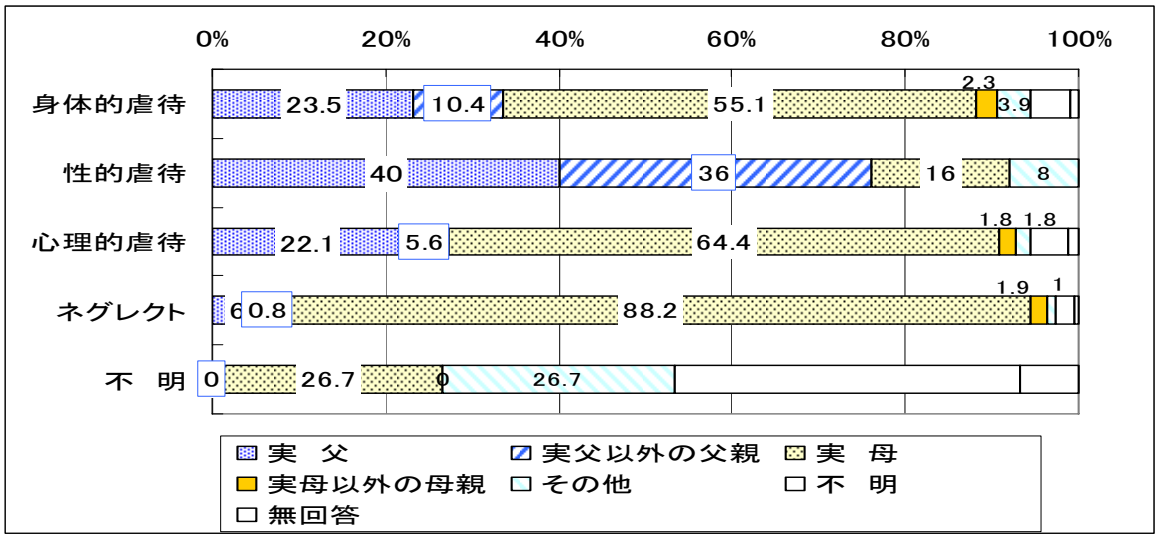
図表１４　　虐待の程度と虐待者



② 虐待者と虐待種類

虐待種別をみると、性的虐待については、実父及び実父以外の父親が 76%を占め圧倒的に高い割合である。また、実父の割合が高いのは、身体的虐待、心理的虐待となる。実母はネグレクトが 9 割近くを占め、ついで心理的虐待が 64.4%、身体的虐待は 55.1%である。

図表１５　　虐待者と虐待の種類

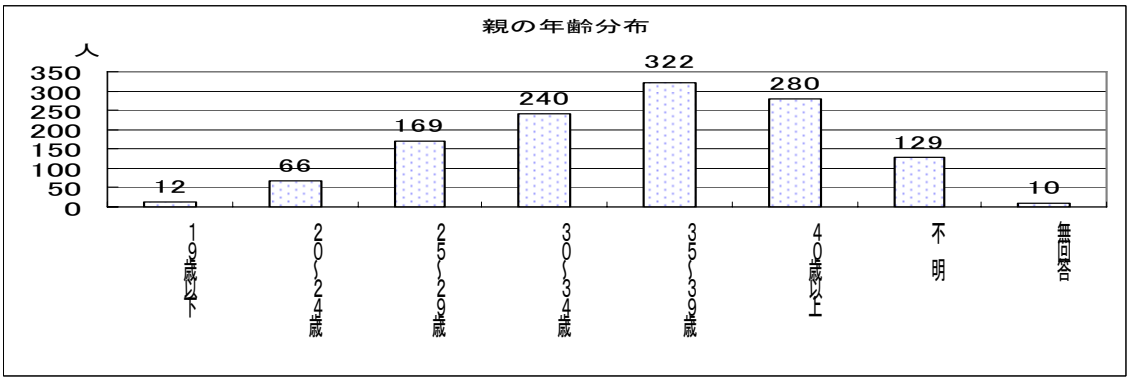


③ 虐待者の年齢

虐待者の年齢は 30 代が全体の 46%を占める。

年齢でもっとも多いのは 35 歳~39 歳で 26.2%あり、ついで 40 歳以上 22.8%、30~34 歳 19.5%、25~29 歳が 13.8%，20~24 歳が 5.4%、10 歳代がである。

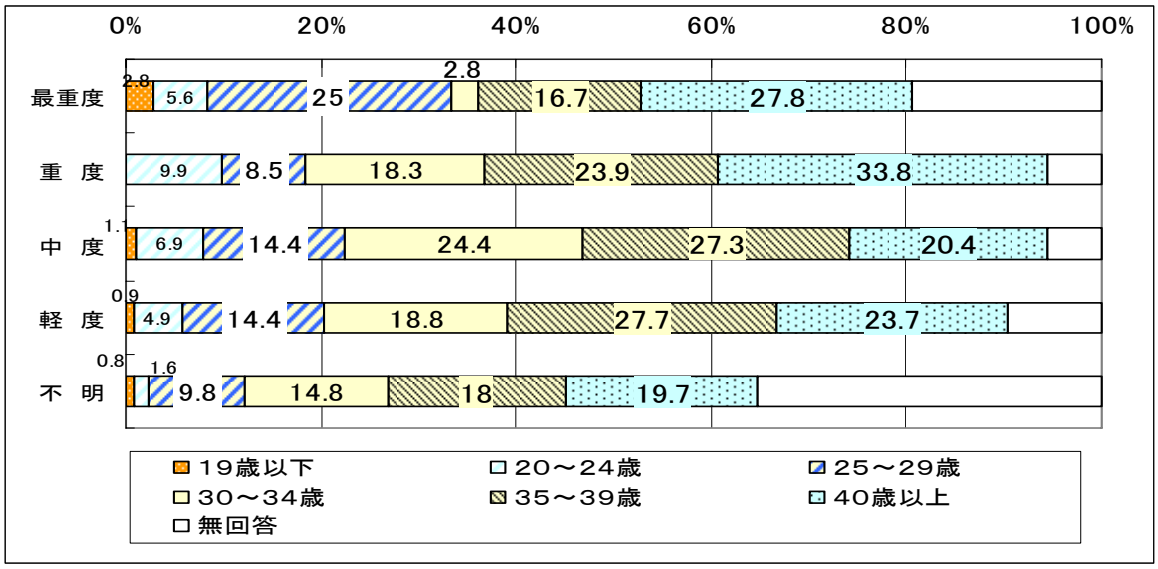
図表１６　　親の年齢分布



④　虐待者年齢と虐待の程度

重度・最重度では 40 歳以上が 30%前後を占めて一番多い。

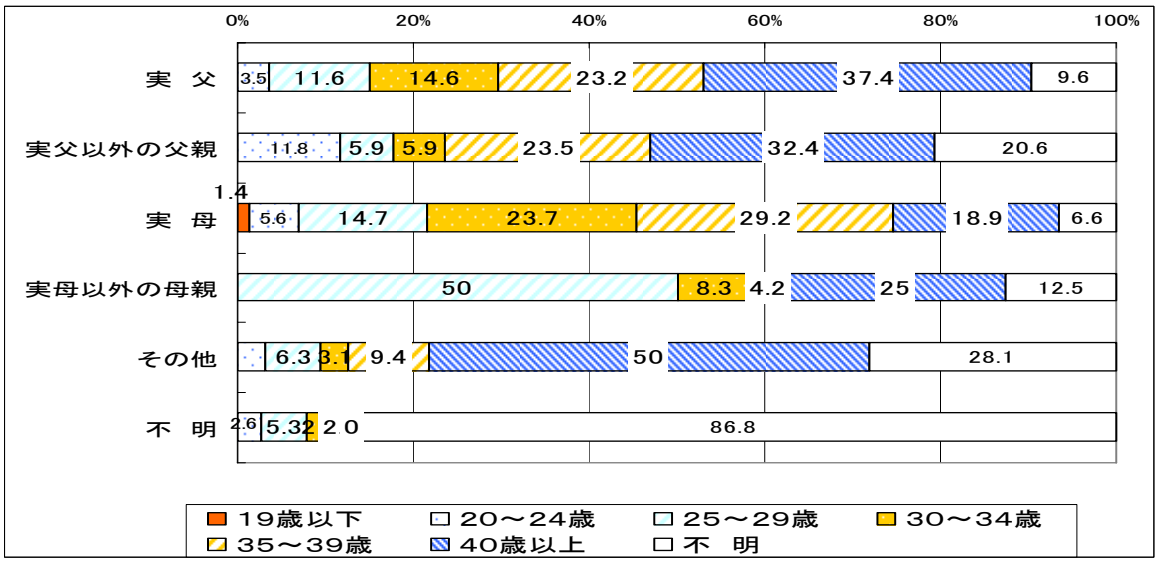
図表１７　　虐待者の年齢と虐待の程度



⑤　虐待者年齢割合

年齢別でみると、実父は 40 才以上の割合が高く、実母は 30 代が 52.9%を占める。実父以外の父親は 20 歳代が 17.7%である。実母以外の母親は 20 代後半が 50%を占める。

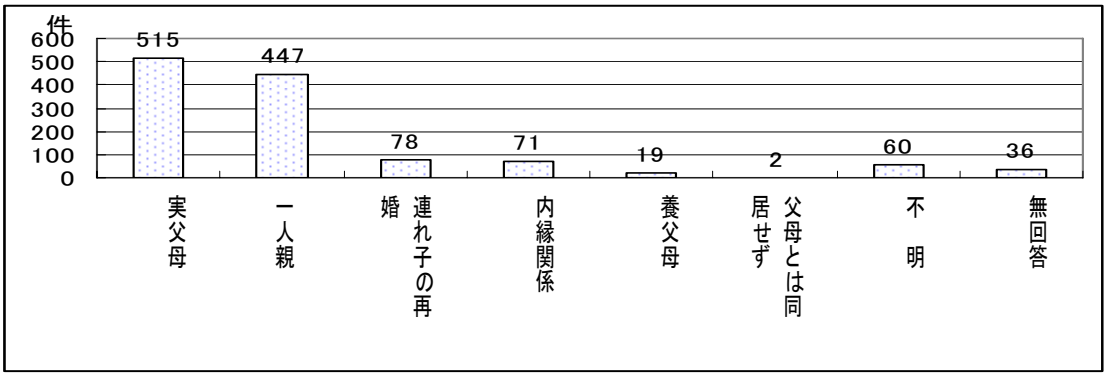
図表１８　虐待者と年齢



2）家族構成

家族構成は、実父母が全体で 42%、一人親が続く。一人親は最も多いのは、離別である。

図表１９　　家族構成　　（一人親の詳細は下の表に示す）



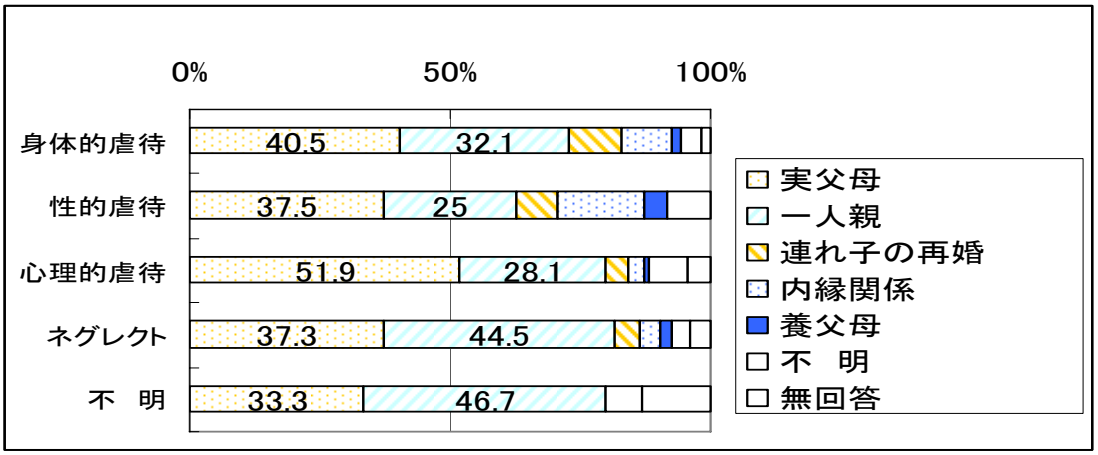
一人親（離婚・別居父）	一人親（離婚・別居母）	一人親（離婚・別居不明）	一人親（未婚）	一人親（死別父）	一人親（死別母）	一人親（不明母）
40 3.3	302 24.6	53 4.3	40 3.3	2 0.2	5 0.4	5 0.4

①　虐待の種類と家族構成

ネグレクトでは、44.5%が一人親であり、ついで実父母が 37.3%を占める。

身体的虐待は 40.5%が実父母である。性的虐待は実父母が 37.5%で、一人親が 25%を占めている。

図表２０　　虐待の種類と家族構成



②　同居の有無

親族等との同居なしの核家族が 73%ある。ここで注目しなければならないことは同居であっても 18%は虐待が発生している。

同居者の多い順は、母方祖父母との同居ついで母方祖母、父方祖父母である。

図表２１　　同居と種類と虐待の程度

	調査数	母方祖母	母方祖父	母方祖父母	父方祖母	父方祖父	父方祖父母	その他	なし	不明	無回答
全　体	1228 100	40 3.3	18 1.5	44 3.6	21 1.7	12 1	34 2.8	71 5.8	899 73.2	101 8.2	9 0.7
最重度	36 100	1 2.8	0 0	2 5.6	0 0	1 2.8	3 8.3	3 8.3	23 63.9	3 8.3	1 2.8
重　度	71 100	5 7	3 4.2	2 2.8	1 1.4	0 0	5 7	6 8.5	48 67.6	3 4.2	0 0
中　度	348 100	7 2	9 2.6	16 4.6	5 1.4	2 0.6	9 2.6	28 8	265 76.1	13 3.7	3 0.9
軽　度	638 100	23 3.6	5 0.8	20 3.1	13 2	5 0.8	13 2	26 4.1	478 74.9	56 8.8	4 0.6
不　明	122 100	3 2.5	1 0.8	4 3.3	2 1.6	4 3.3	3 2.5	7 5.7	76 62.3	26 21.3	0 0

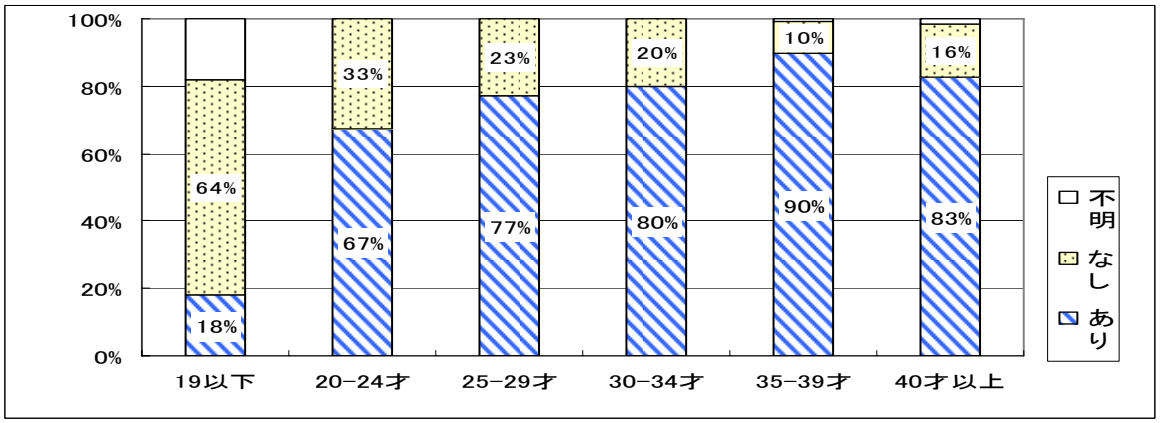
３）同胞（きょうだい）

30 歳以上の８割は、２人以上の子どもを育てている。

親が、子どもを１人養育している状況は、全体の 16%（192 人）で、他は１人～7 人を育てている。もっとも多いのが２人で全体の 36%（442 人）、ついで３人が 20%（241 人）、４人は 8%、５人以上から７人が７%である。

①　虐待者の年齢と子どもの数

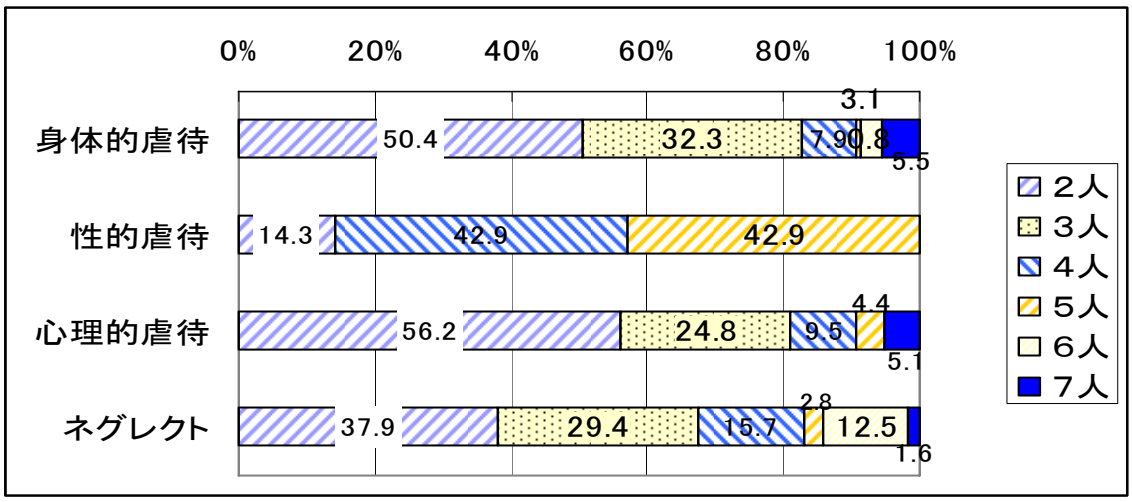
図表２２　　虐待者の年齢と２人以上の子の有無



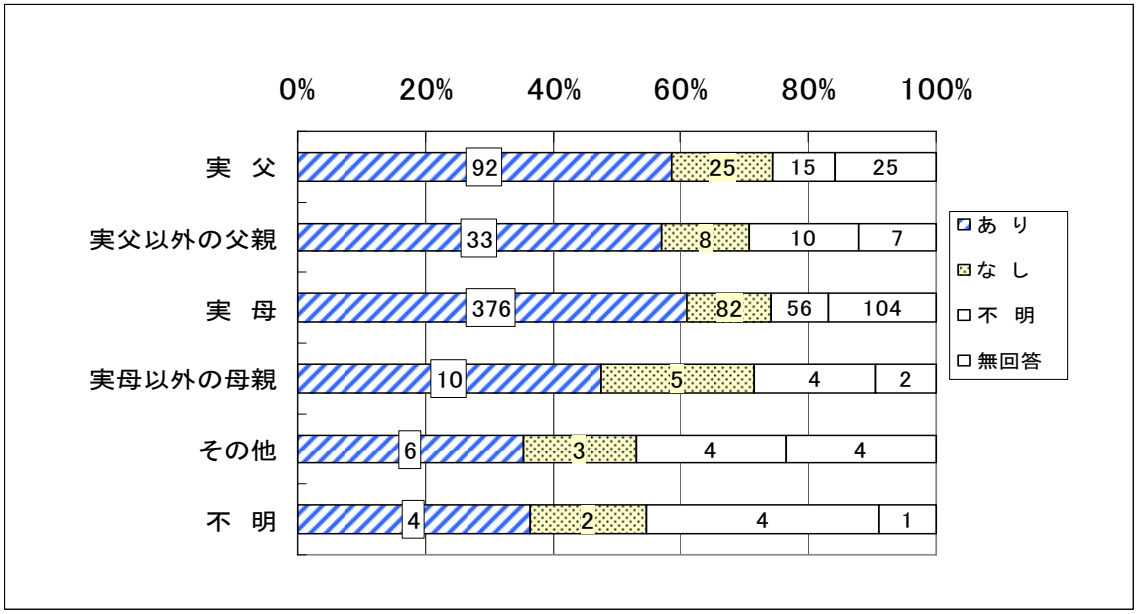
② 同胞への虐待

同胞で虐待を受けている状況をみると、心理的虐待、身体的虐待はそれぞれ５割が２人きょうだいで占める。性的虐待は、２人から５人までの間で発生している。ネグレクトは６人きょうだいや７人きょうだいが他より割合が高くなる。

図表２３　　養育する子どもの数と虐待の種類



③ 同胞ありとした場合の虐待の有無

同胞のある場合、「虐待あり」の割合は、実母、実父、実父以外の父親は50%を超える。

図表２４　　同胞ありと回答した場合の虐待の有無